

令和3年度 学校評価アンケート集計結果 考察

【生徒】 回収率 89.9%

・はじめに、今年度はGIGAスクール構想によるタブレット端末が配付されたため、これを活用しての回答となった。紙媒体での実施は行っていない。

・たいへんそう思う(1)、ややそう思う(2)の合計が90%を超えた肯定的意識は昨年度の10項目から、本年度は14項目に増加した。21項目であった一昨年と比較するとまだその数までは届かないが、概ね良好であると捉えられる。昨年度の結果から数値が上昇した理由として、新型コロナウイルス対策により教育活動の縮小が行われていたが、今年度になって緩和された部分が多くあり、教育活動の幅が広がったことが一つの要因として考えられる。詳細なデータで分析したわけではないが、卒業した学年と、入学した学年に回答の大きな差異があるとはあまり考えられない。ゆえにこの結果は素直に喜ばしい結果として受け止めたい。

しかし、もちろん手放しで喜べるものではない。特に顕著な結果であるのは、「先生について」の質問項目で、これは8項目の質問に対して肯定的意識が80%を超えたものは2項目だけであった。具体的に80%を下回ったものは、35「悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生がいる。」、36「自分のことをよく理解してくれている先生がいる。」、37「部活動での自分の取り組みを認めてくれる先生がいる。」、38「委員会や係活動での自分の取り組みを認めてくれる先生がいる。」、40「先生は誰でも同じように注意している。」、41「先生はいじめに対してきちんと指導し、解消してくれる。」の6項目であった。どれも肯定的意識は少なくとも60%を超えてはいるものの、内容が内容であるだけに学校はこれを重く受け止めなければならないと感じる。また「先生について」の8項目は殆どが昨年度比にして肯定的意識が微増しているが、41「先生はいじめに対してきちんと指導し、解消してくれる。」についてのみ微減してしまった。これについては教職員の意識の刷新が急務である。新型コロナウイルス対策により人間関係の希薄さのようなものが生まれ出ている可能性もあるが、生徒が教師との心理的距離感を感じているようでは、学校の魅力は半減してしまうであろう。まだしばらく身体的距離感を取らなければならない社会が続くそうであるが、心理的距離感は縮めていけるよう教職員の意識を変えていきたい。

他に特筆すべき内容として、「学習・授業について」のうち、19「予習・復習など家庭学習に取り組んでいる。」が前年比マイナス5ポイントで、1day1pageなどの家庭学習の定着から再度行うとともに、GIGAスクール構想におけるタブレット端末の活用や、それに準じて柏市教育委員会より提供されているミライシードドリルパークなどのコンテンツの活用を各教科・学年において適宜行うことで、日ごろから学習に向かう機会をつくっていきたい。次に21「学活の授業などで将来の進路や職業について考える機会がある。」については昨年度比プラス12ポイントで、各学年のキャリア教育の充実が数値に表れたようである。

【保護者】 回収率 71.6%

<昨年度同様の質問で下降した項目>

- ・ 5 「学校からのお知らせやたよりはいつも見ている。」・・・76% (昨年79%)
- ・ 11 「お子様は、授業の予習・復習や宿題，
自主学習など家庭学習を行っている」・・・54% (昨年57%)
- ・ 26 「学校は、いじめは絶対に許されないこととして，
適切な指導を行っている。」・・・56% (昨年57%)

<昨年度同様の質問で特に上昇した項目>

- ・ 4 「お子様は、給食をおいしいと言っている。」・・・84% (昨年79%)
- ・ 7 「柏三中には、授業や活動の前に
黙想の時間があることを知っている。」・・・47% (昨年37%)
- ・ 8 「合唱コンクール・輝秋祭などの行事は，
お子様にとって有意義なものであったと感じている。」・・・92% (昨年73%)
- ・ 18 「お子様は、人に呼ばれたときに返事をしている。」・・・84% (昨年79%)
- ・ 19 「お子様は、言葉遣いがきちんとしている。」・・・74% (昨年69%)
- ・ 21 「お子様は、交通ルールを守っている。」・・・97% (昨年92%)
- ・ 25 「教職員は、生徒の部活や委員会活動等，適切に指導している。」・・・71% (昨年63%)
- ・ 29 「校地、校舎や教室は清潔でよく整備されている。」・・・87% (昨年79%)

・はじめに、今年度は生徒アンケート同様に紙媒体でのアンケートを行わず、学校ウェブページ上にアンケート回答のページを作成し、そこで回答を依頼した。回答率の低さも次年度以降の大きな課題となっている。

・たいへんそう思う(1)、ややそう思う(2)の合計が80%を超えた肯定的意識は昨年度の4項目から、本年度は7項目に増加した。減少した項目は3項目のみで、全て微減であったが、いじめに対しての学校の姿勢が評価としてマイナスになったのは生徒、保護者とも同じであるという結果になった。このことは真摯に捉えていきたい。

その反面、増加した項目は多く、それらの内容を総合すると、学校あった出来事などを家庭で話をしているような印象を受ける。また、合唱コンクール、輝秋祭が実施できたこともあり、97%もの保護者がこれについて肯定的な意識を持っていることに感謝の念を覚えずにはいられない。これらの大きな学校行事は、昨年(ひいては一昨年度の3年生を送る会・卒業式以降)から、実施すること自体が教職員にとっても悲願であり、これを強く肯定して頂ける結果となったことはたいへん心強い。

最後に、生徒の質問6「教室は掲示物などが整ってきれいに保たれている。」はマイナス2ポイントであったが、保護者の質問29「校地、校舎や教室は清潔でよく整備されている。」はプラス8ポイントと、生徒、保護者の間に大きな認識の差があることが分かった。保護者は学校公開などを通じて学校に来る機会が昨年度より増えたため、肯定的意識が多く、毎日過ごしている生徒からすれば、まだまだきれいになる環境であるとの認識の差ではないだろうか。ぜひとも清掃活動を軸に、教職員、生徒共に校内環境美化を目指し、落ち着いた学習環境を作り上げていけるようにしたいものである。